

この川向ふも屋敷跡あり壬午壬申あり
凡そと出—とそ古人昔も多ありし
按云傳れた按ず—陸羽志—居士按の系
位と—記もや、河内洞永山泉流寺は徳元
公の位碑あり古来の位碑は貞享年中焼
失といふ、戒名洞永院及泉流大禅定元五月
十五日とあり又洞永山大堂の内は徳元公の
本像あり下扉戸といふ、古洞永大堂の扉ふ
めも板を上する所を、此新名付なりといふ
け所より洞永志意沢中へ出る所あり程一里

半あり

一玉見山玉川寺

壬代誠後村上奥雲寺末寺とある

玉見村はあり古伝は石一寺、乙未乙未合、玉見一
面、面地、面村、古社、伝畧記—、面村を指
川通—とある

本朝列女傳曰玉乃自大荒木、臣玉乃自者
羽州田川郡人也、夫死之後、廬於墓側、婦
念、仏理、守節不移、貞觀十三年春二月、叙
位二階、免戸内祖、表門閤、孀婦、邦國拔、を
思、九原、人忽生、百憂、偶有、榮賜、永娛、春秋